

「のぶすま」
「優良物件？」の巻

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。
ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

作・絵：こばやし

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
昨年10月～12月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

高尾ビジターセンター【公式】
@takaovc

天気:晴 気温:1.5°C 富士山展望:○

今朝は #シモバシラ の #氷華 が見られました!気温がととも低い時しか見られません。今朝は見事に出来ました♪この時期になると解説員も「今日は見られるかな?」とドキドキしながら山頂へ向かっています。

#高尾山 #イチカバチカ #距離を保とう

午前10:08 · 2020年12月16日 · Twitter Web App

冬に注目が集まるシモバシラの氷華!山頂周辺の今季初の氷華は、2020年12月16日に確認されました。ちなみに前年は12月28日が初認でした。やはり暖冬だったのですね～。

解説員 ころむ vol.24
知ることの楽しさ

私は高尾ビジターセンターで働くまで、ムササビを見たことがなかった。四月から勤務がスタートし、いつか見たいなあと思っていたある日、先輩スタッフが仕事終わりにムササビ観察へ誘ってくれた。

日没後、巣穴の近くでムササビが出てくるのを待っていると、先輩スタッフがムササビを見つけ「あそこだよ!」と教えてくれた。しかし、薄暗い中での観察に慣れていない私は、すぐには場所がわからなかった。あの辺か?と思った瞬間、ムササビは木の間をすごいスピードで滑空して行ってしまった。

本物を見て驚いた私は、もっとムササビのことを知りたくなった。生態を調べていくうちに、ムササビは人間とも深く関わりがあり、いくつかの妖怪のモデルになっていることがわかった。モデルとなった妖怪の中で、一番意外だったのが砂かけ婆である。何で婆さん?と思ったが、こちらもムササビのある行動が関係していた。ムササビは巣穴のある木や滑空した最初の樹木で砂粒のようなフンをする。フンをした後はすぐに移動してしまうため、その場に居合わせた人からすると、何も無い所から砂が落ちてきたように感じるのだ。理由まで聞いて「なるほど!」と納得した。

自分が知っていることと繋がると、一気に親近感が湧く。ムササビについてはわかってきたが、まだまだ知らないことはたくさんある。次はどんな生きものと出会えるか楽しみだ。

(解説員 かわまた)

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol.62 季刊
2021年冬号



高尾山の樹洞～樹洞を利用する生き物～

昨年の冬、木々の葉が落ちた時期によく姿が見られたキツツキ類の観察がきっかけとなり、山内のさまざまな樹洞を発見しました。
その後一年を通して樹洞を観察してみると...!?
今号は、高尾山の樹洞と、樹洞を利用する生き物たちを紹介します。



樹洞のでき方と利用方法

※中は腐っても、木の生きている細胞は樹皮の内側にあるので、木は生きています!



樹洞を見て出会えた生き物の一部紹介!



高尾山の れまし vol.24

高尾山のギフチョウ



ギフチョウは1950年代までは高尾山にも生息していましたが、森林の環境変化に伴って、今はなくなってしまいました。ギフチョウがいた記録から当時の高尾山を想像してみます。

ギフチョウは小型のアゲハチョウの仲間、翅は黒と黄色のまだら模様をしています。春にサクラが咲くころに成虫が現れ、カタクリやサクラなどの花に集まります。卵はカンアオイ類に産み付けられ、孵化した幼虫はその葉を食べて育ちます。成虫が春に現れることや華やかな姿から「春の女神」とも呼ばれ親しまれてきました。

現在、このチョウは各地でだんだんと姿を消しています。宅地開発や里山環境の衰退などにより、生息に適した林床が明るくカンアオイ類が豊富に生育する雑木林や植林地が減少したためです。高尾山では1950年代後半にはすでに絶滅してしまっただけでなく、考えられていて、さらに東京都からは1970年代前半に絶滅してしまいました。

文献によると高尾山のギフチョウは、1950年代以前は薬王院付近や小仏城山から高尾山までの尾根筋などで見ることができたそうです。昭和2年ごろの高尾山の写真を見ると、山頂周辺は茅場として使われており、ススキなどからなる草地となっていました。尾根筋も今よりも明るい環境だったと考えられます。生息地によって幼虫が食べるカンアオイの種類に違いがあるのですが、高尾山ではランヨウカンアオイやカントウカンアオイ、タモノカンアオイなどの葉を食べていたそうです。昆虫学の普及に力を注いだ志賀勉助氏の著書の中には、1930年代の高尾山では3月中旬ごろからギフチョウがたくさん採れたと書かれています。90年ほど前の高尾山では、春にギフチョウたちが飛び交っていたこ

とや、カンアオイ類が今よりもたくさん生育していたことが想像できます。

高尾山からギフチョウが絶滅して久しいですが、2020年4月16日、自然研究路5号路でギフチョウを確認し撮影された方がいました。写真を見せてもらうと間違いなくギフチョウの姿が写っていました。一見、高尾山に再び舞い戻ってきたのかと思う出来事ですが、喜ぶことはできませんでした。現存する生息地から高尾山までは距離があるため飛んできたとは考えづらく、人が放したことに由来するからです。このほかにも高尾山でギフチョウが目撃される事例があるのですが、放されたチョウたちは、この産地のものかわかりませんし、ギフチョウが生息していない現在の高尾山では生きていくことは難しいです。

ギフチョウが自然に高尾山に戻ってくる日が来れば素敵なことだと思います。しかし、人が無理やり放すことは現在の食物連鎖に影響を与えてしまうことや、地域固有の遺伝子を攪乱してしまう可能性もあります。時代の流れとともに環境は変化しているものの、高尾山には今もなおたくさんの生物が生息できる森が残されています。今ある高尾山の自然を大切に残していきたいですね。

(解説員 ふくざわ)

参考文献：東京都環境局(2013)レッドデータブック東京2013、八王子市(2016)八王子市動植物目録、八王子市(2014)新八王子市史、藤田宏・山口茂(2015)高尾山の昆虫430種！、志賀勉助(1996)日本の昆虫屋、わたしの九十三年

解説員の

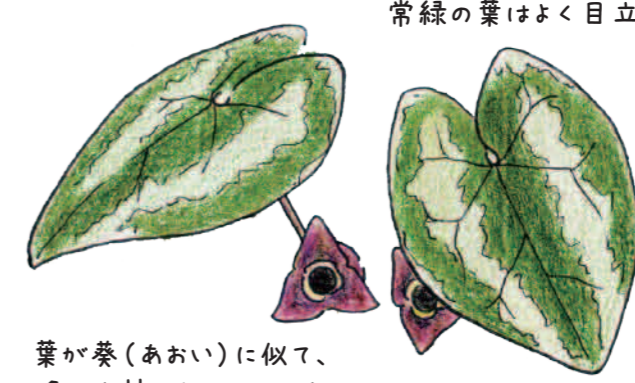


vol.20

カントウカンアオイ

葉の下でひっそりと咲く 三角の花

落葉の時期、常緑の葉はよく目立つ



葉が葵(あおい)に似て、冬でも枯れないことからこの名がついた

花を見たことがないという方が多いのにもかかわらず、半ば地面に埋もれるように咲いています。見た方は「やっつてるかい」と暖簾(のれん)をめくるように、葉を優しくよけて覗いてみてください。

花期：11月～3月
見られる場所：1・4号路、稲荷山コース
(解説員 うめだ)

樹洞発見のきっかけとなったキツツキ！

「ドルルルル」と大きな音を出して木をつついていきます。落葉シーズンは、一心不乱に木を突いている姿や滑らかに幹を移動する様子が観察しやすく面白いです。

同じようなポイントや木でキツツキの音が聞こえたので周りの木々を観察していると、樹洞を見つけることができました。

ドルルルルルル

- キツツキが木をつつく理由
- ① 木の中にいる虫を見つけて食べるため
- ② 巣を作るため
- ③ 求愛、縄張りを示すために音を出す

生き物同士のつながり

キツツキがあけた穴は、後に様々な生き物が利用しています。

キツツキは自分のためにしていることですが、結果的に他の生き物の住処をつくる、重要な存在となっています。

【高尾山でみられるキツツキ科の仲間】

コゲラ: 全長15cm。冬はシジュウカラなどの小鳥たちの群れに混ざっている。

アオゲラ: 全長29cm。緑色の羽がきれい。体が大きいだけに、木をつつく音や声も大きい。冬に聞こえる地鳴き「キョッキョッキョッキョ」より、繁殖期のさえずり「ピーーピーー」の方が存在感が強い。日本固有種。

アカゲラ: 全長24cm。下から見上げた時に赤色がきれい。「キョッキョッキョッキョ」「ケツケツケツケ」とアオゲラと似たような感じで鳴く。意外と身近にいるが、アオゲラより神経質なのか、こちらの気配に気付くとすぐに逃げる印象。

オオアコゲラ: 全長28cm。ごくまれに高尾山に冬鳥として渡来。高尾山での記録は1997年1号路、1羽、2013年蛇溝コース、1羽【八王子動植物目録より】。記録には残っていない目撃例があるようなので、是非出会ってみたい。

幼鳥は前頭部まで赤い

胸部～腹部の模様が違う

樹洞を観察するポイントと注意

中に何か入っている?!
中に何かが入っていれば、巣材として運ばれた可能性があります

かじり痕
穴を広げるために、ムササビなどがかじった跡

ここに注目!

・スズメバチやヘビも、樹洞を利用しています。いきなりのぞき込んだり、むやみに触ったりはしないようにしましょう。
・樹洞は生き物にとって大切な生活の場です。観察する時は、人が悪影響を与えないように配慮しましょう。

高尾山の木々と樹洞

高尾山は信仰や歴史的な背景を理由に、山内の自然が保護されてきました。その為、様々な樹種の大径木がたくさん見られます。

意識して山を歩いてみると、大なり小なり、いろんな形の樹洞があることに気が付きます。そこには、昆虫類・クモ類・鳥類・爬虫類・哺乳類など、さまざまな高尾山で暮らす生き物の活動した痕がありました。高尾山に数多く残されてきた木々の樹洞が、樹洞を利用している生き物の生活を支えています。

今回、冬のキツツキ観察をきっかけに樹洞に注目することになり、山内に様々な樹洞がみられることがわかりました。生き物が、単独ではなく同じ樹洞をシェアしているところも面白いなと思いました。この冬は、登山をしながら樹洞探しはいかがでしょうか。春、高尾山の生き物たちが活発になる時期の、面白い出会いにつながるかもしれません。

(解説員 やまもと)

小石がたくさん入っていた樹洞。これは人の仕事??

過去には、4号路にお稲荷さんの置物とたくさんの1円玉が置かれていた樹洞もありました。(祠...??) 人にとっても、樹洞はなにか惹かれるものがあるようです!?

※山に勝手に置いてはいけません